住まい備忘録 第13回

花ブロックを住まいへ

㈳日本建築家協会 沖縄支部 幹事
伊良波 朝義
(㈲義空間設計工房)

集合住宅廊下部分への導入例

大学卒業後、東京の設計事務所で学ぶ機会を与えていただき、30歳で事務所を創設し、多くの方々に支えられ、13年目を迎えることができた事に感謝致しております。

生まれ育った地を離れ、外から眺める事で、故郷を深く想い、良き事、悪き事を知る事ができると言われます。私も沖縄を離れてみて、本土との文化や習慣の違いに驚かされたことを、今でも鮮明に覚えています。

本土の建築を「華奢で繊細」と表現するならば、沖縄の建築は「骨太で彫りが深い」と表現されるのではないでしょうか。高温多湿で台風の襲来も多い気候風土が、建物にも大きく影響を与えているという事を、沖縄から離れることで、改めて感じさせられたものです。

その中でも、沖縄の夏を快適に過すために、長い月日を経て生まれてきた形態には、我々が学ばなければならない事が数多くあります。

その一つに花ブロックがあります。花ブロックは、沖縄での戦後復興期、ブロック造や鉄筋コンクリート造へと変遷していく中で、沖縄の建物に数多く取り入れられてきました。耐久性や、遮熱効果が高く、通風を確保する事ができる花ブロックを利用する事で、エアコンに頼らない生活を可能にする事ができます。また、目隠しができ、日除けや防犯対策にも優れているため、昼夜を問わず開放することができます。さらに、コンクリートの無機質な表情の中に、陰影のある有機的な表情を造ってくれるのです。

遮熱など様々な効果もたらす

しかし、近代化に伴い、軒や庇の無い建物が出現し、花ブロックは徐々に姿を消してきたように感じられます。地球温暖化が叫ばれ、環境への負荷を考慮しなければならない今日、花ブロックの活用は様々な効果をもたらしてくれるものと考えています。

住宅の西側への導入例